

## 学会録事

### 1. 日本藻類学会第31回大会報告

#### (1) 日本藻類学会第31回大会

上記大会を2007年3月23–25日、神戸大学理学部と瀧川記念学術交流会館(神戸市)を会場に開催した。参加者225名、講演数121題(うち口頭発表は74題、展示発表は47題)に及んだ。

大会1日目は午後から神戸大学理学部C棟509号室にて、編集委員会と評議員会を開催した。大会2日目はポスターセッションを挟んで終日神戸大学理学部Z棟の2会場で口頭発表を行い、午後6時より瀧川記念学術交流会館にて日本藻類学会総会を開催した。総会終了後、同会館食堂で懇親会を催した。大会3日目はポスターセッションを挟んで午後2時半まで口頭発表を行った。口頭発表の終了後、藻類学最前線ワークショップ(ワークショップA「最新!分子系統解析法」、ワークショップB「DNAを用いた藻類の集団解析—海藻・アオコ・赤潮研究の最前線」)を開催し、本大会を終えた。

神戸大会の開催にあたり、大会実行委員会の三村徹郎氏、洲崎敏伸氏、本多大輔氏、田辺祥子氏、その他神戸大学の研究員、大学院生および学部学生諸子等、多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

#### (2) 編集委員会・評議員会

3月23日午後3時から神戸大学理学部C棟509号室において、英文誌および和文誌の合同編集委員会を開催した。

和文誌について北山和文誌編集委員長より「藻類」54巻および「藻類」55巻の編集状況に関する報告があった。2006年に発行された「藻類」54巻には6編の原著論文や総説のほか、学会講演要旨や企画記事等が掲載され、総頁数は194頁であったことが報告された。また、2007年度の編集方針についての説明があった後、投稿規定の改正などに関する議論が行われ、今後も編集委員会を通じて議論が続けられることとなった。

英文誌については石田英文誌編集長から「Phycological Research」の2006年度、2007年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2006年度は総頁数340頁、掲載論文数36編であったことが報告された。2007年度については55巻1号に8編、2号に10編の掲載があり、55巻3号以降の掲載論文として12編が受理されているという報告があった。また、2007年1月からの新編集体制と掲載料の徴収についての説明があった。さらにBlackwell Publishing AsiaのKatie Julian氏から出版、販売、引用状況等についての説明があった。

評議員会は編集委員会終了後、同会議室にて午後4時半より開催された。川井会長を議長に選出し、2007年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議した。その内容に関しては総会の項を参照されたい。

#### (3) 2007年度総会

3月24日の口頭発表終了後、午後6時より神戸大学瀧川記念学術交流会館にて総会を開催した。川井会長の挨拶の後、北海道大学の堀口健雄氏を議長に選出して総会の議事に入った。

##### [報告事項]

##### ・庶務関係

(1) 会員状況(2007年3月11日現在): 名誉会員5名、普通会員856名(国内・一般625名, 国内・学生100名, 外国131名), 団体会員58名, 賛助会員14名, 国内購読19件, 国外購読4件。

(2) 2006年度事業報告 1) 日本藻類学会第30回大会・評議員会・総会(鹿児島大学工学部及び稲盛会館, 3月26–29日)の開催, 2) 和文誌「藻類」54巻1–3号を発行, 3) 英文誌「Phycological Research」54巻1–4号を発行, 4) 第9回日本藻類学会論文賞(佐々木秀明氏, 村上明男氏, 川井浩史氏)の授与, および第10回日本藻類学会論文賞の選考, 5) 第2回日本藻類学会研究奨励賞(坂山英俊氏)の選考及び授与, 6) 日本藻類学会会長選挙及び評議員選挙の実施, 7) 2006年度日本藻類学会秋季シンポジウム「海藻と健康の展望—大学研究室からの報告」(11月18日, 東京海洋大学, 日本海藻協会・日本応用藻類学研究会との共催)の開催, 8) Techno-Ocean2006/19<sup>th</sup> JASNAOE Ocean Engineering Symposium(10月18–20日, 神戸国際展示場)の協賛, 9) 日本植物学会シンポジウム「絶滅危惧水生植物, 車軸藻類の保全生物学をめざして」(9月14–16日, 熊本大学)の後援

##### ・会計関係

(1) 2007年度3月11日現在の2006年度会費納入率(雑誌発送会員を対象)は、普通会員(国内・一般)92.9%, 普通会員(国内・学生)100.0%, 普通会員(外国)82.9%, 賛助会員80.0%, 団体会員79.7%であった。

(2) その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

##### ・編集関係

(1) 2006年度に発行した和文誌「藻類」54巻1–3号は、総頁数194頁、内訳は原著論文・総説6編、その他であった。

(2) 2006年度に発行した英文誌「Phycological Research」54巻1–4号は、総頁数340、掲載論文数36編であった。また、55巻についても順調に編集作業が進んでいるとの報告があった。これらに関連した詳細については、前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

##### [審議事項]

##### ・庶務関係

(1) 2007年度事業計画として以下の事項が承認された: 1) 日本藻類学会第31回大会・評議員会・総会(神戸大学理学部3月23–25日)の開催, 2) 第10回日本藻類学会論文賞の授与と第11回日本藻類学会論文賞の選考, 3) 第3回日本藻類学会研

究奨励賞の選考、授与と第4回日本藻類学会研究奨励賞の募集、4) 和文誌「藻類」55巻1-3号の発行、5) 英文誌「Phycological Research」55巻1-4号の発行、6) 小笠原諸島の海藻類の多様性調査、7) 秋季シンポジウムの開催、8) 第10回マリンバイオテクノロジー学会大会(5月26-27日)への協賛・会計関係

(1) 2006年度一般会計決算報告および同監査報告(伊藤裕之会員、渡部雅博会員)は表1の通り承認された。尚、貸借対照表を作成すべきとの意見があり、検討されることとなった。

(2) 2006年度山田幸男博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告は表2の通り承認された。

(3) 2006年度研究奨励賞事業特別会計の決算報告および同監査報告は表3の通り承認された。

(4) 2007年度一般会計、山田幸男博士記念事業特別会計、および研究奨励賞事業特別会計の予算は表4、表5および表6の通り承認された。

・その他

(1) 日本藻類学会第32回大会(東京海洋大学)の日程が承

表1. 2006年度一般会計決算(2006.1.1-2006.12.31)

収入(円)		支出(円)	
会費	7,074,500	英文誌経費	5,737,780
普通(国内・一般)	4,546,000	和文誌経費	2,247,147
普通(国内・学生)	300,000	編集費	300,000
普通(外国)	433,500	英文誌編集補助費	200,000
団体会員	1,255,000	和文誌編集補助費	100,000
賛助会員	540,000	庶務費	262,941
販売代金	13,500	事務用品費	3,644
バックナンバー	10,500	会議費	32,525
書籍	3,000	印刷通信費	178,607
和文誌別刷、超過頁代	578,560	諸雑費	48,165
広告代	150,000	幹事旅費補助	22,000
受取利息	658	大会補助費	120,000
学術振興会刊行助成金	2,000,000	日本分類学会連合分担金	20,000
和文誌複写使用料	2,308	口座振替サービス導入経費	1,330
英文誌版權還付金	192,574		
小計	10,012,100	小計	8,711,198
前年度繰越金	9,957,227	次年度繰越金	11,258,129
合計	19,969,327	合計	19,969,327

表2. 2006年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算(2006.1.1-2006.12.31)

収入(円)		支出(円)	
受取利息	849	論文賞用雑費	2,567
小計	849	小計	2,567
前年度繰越金	2,596,284	次年度繰越金	2,594,566
合計	2,597,133	合計	2,597,133

表 3. 2006 年度研究奨励賞事業特別基金会計決算 (2006. 1. 1-2006. 12. 31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	165	奨励賞賞金	100,000
小計	165	小計	100,000
前年度繰越金	2,100,010	次年度繰越金	2,000,175
合計	2,100,175	合計	2,100,175

日本藻類学会 2006 年度決算報告に対し記名捺印する。 2007 年 3 月 21 日

会 長 川井 浩史 印

会計幹事 本多 大輔 印

決算書が適正であることを認める。

2006 年 3 月 22 日

会計監事 渡部 雅博 印

伊藤 裕之 印

表 4. 2007 年度一般会計予算 (2007. 1. 1-2007. 12. 31)

収入 (円)		支出 (円)	
会費	6,155,050	英文誌経費	5,800,000
普通 (国内・一般)	3,929,200	和文誌経費	2,000,000
普通 (国内・学生)	266,000	編集費	300,000
普通 (外国)	458,850	英文誌編集補助費	200,000
団体会員	1,102,000	和文誌編集補助費	100,000
賛助会員	399,000	庶務費	210,000
販売代金	520,000	事務用品費	40,000
定期購読	500,000	会議費	40,000
バックナンバー	20,000	印刷通信費	90,000
和文誌別刷, 超過頁代	400,000	諸雑費	40,000
英文誌掲載料	60,000	幹事旅費補助	30,000
広告代	300,000	大会補助費	120,000
受取利息	600	秋季シンポジウム補助費	20,000
和文誌複写使用料	3,000	口座振替サービス導入経費	5,000
英文誌著作権還付金	230,000	自然史学会連合分担金	40,000
寄付金	45,000	日本分類学会連合分担金	10,000
小計	7,713,650	小計	8,535,000
前年度繰越金	11,258,129	次年度繰越金	10,436,779
合計	18,971,779	合計	18,971,779

表 5. 2006 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算 (2007. 1. 1-2007. 12. 31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	800	論文賞用雑費	2,000
小計	800	小計	2,000
前年度繰越金	2,594,566	次年度繰越金	2,593,366
合計	2,595,366	合計	2,595,366

表 6. 2007 年度研究奨励賞事業基金特別会計予算 (2007. 1. 1-2007. 12. 31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	150	奨励賞賞金	100,000
小計	150	小計	100,000
前年度繰越金	2,000,175	次年度繰越金	1,900,325
合計	2,000,325	合計	2,000,325

認められた。第 33 回大会の開催地については、総会までに候補地を選定できなかったため、事務局に一任された。

(2) 2007-2008 年度の会計監事として、伊藤裕之氏および渡部雅博氏の両会員が承認された。

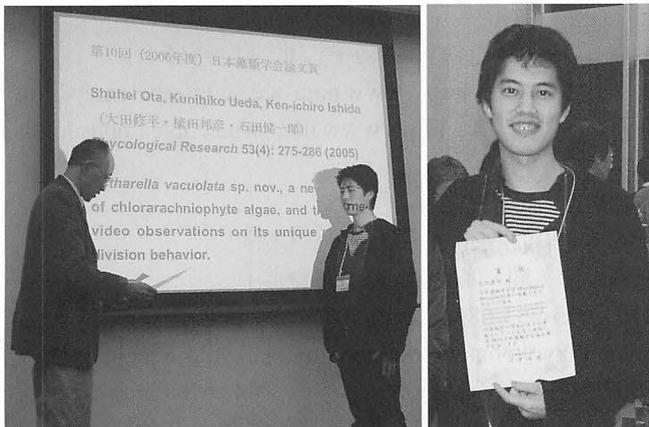
#### [ 日本藻類学会論文賞授与 ]

第 10 回日本藻類学会論文賞受賞者の発表および授与が行われた。これは 2005 年から 2006 年にかけて出版された英文誌「Phycological Research」vol. 53 (4), vol. 54 (1)-(3) の中から、規定により審査員の投票によって選ばれ、総会前日に開催された合同編集委員会および評議員会で了承されたものである。今回は下記の論文が選ばれ、論文の著者にそれぞれ賞状が授与された。

Shuhei Ota, Kunihiko Ueda, Ken-ichiro Ishida  
Phycological Research 53 (4): 275-286 (2005)  
*Lotharella vacuolata* sp. nov., a new species of chlorarachniophyte algae, and time-lapse video observations on its unique post-cell division behavior

#### [ 日本藻類学会研究奨励賞授与 ]

第 3 回日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。同賞は藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰するものであり、推薦委員会で授賞候補者が選ばれた後、評議員会で了承されたものである。今回は加藤亜記氏（神戸大学内海域環境教育研究センター）が選ばれ、賞状および副賞（賞金 10 万円）が授与された。



論文賞受賞者の 1 人、大田修平氏



研究奨励賞受賞者の加藤亜記氏

## 2. その他の報告

### (1) 小笠原諸島の海藻類の多様性調査について

2007年5月10-12日にかけ、小笠原諸島父島において海藻類の多様性調査が行われた。参加者は7名(川井浩史, 川口栄男, 北山太樹, 内村真之, 島田 智, 一木重夫, 羽生田岳昭(敬称略))。調査結果の報告は日本藻類学会第33回大会で行う予定。

### (2) 日本藻類学会第32回大会の日程について

東京海洋大学において2008年3月25-27日に開催されることが了承されていた日本藻類学会第32回大会の日程が、他学会の

大会日程との関係などから2008年3月21-23日に変更された。

(3) 平成19年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の「Phycological Research」への申請について

昨年申請した上記補助金研究成果公開促進費「学術定期刊行物」については、採用されなかった旨、日本学術振興会から連絡があった。「国際情報発信のための取り組みが少し弱い」との意見があったことが付されていたほか、予算の大幅な減少に伴い、採択率が下げられた状況の説明が付されていた。

## 学会・シンポジウム情報

2007年9月7日(金)～9日(日)

**日本植物学会第71回大会**(東京理科大学理工学部, 野田) [<http://bsj.or.jp/bsj71/>]

2007年9月10日(月)～13日(木)

**10th International Colloquium on Endocytobiology and Symbiosis** (Gmunden, Austria) [<http://www.endocytobiology.org/>]

2007年10月1日(月)～5日(金)

**北海道大学21世紀COEプログラム「新・自然史科学創成」国際シンポジウム「The Origin and Evolution of**

**Natural Diversity**」(北海道大学学術交流会館, 札幌) [<http://nature.sci.hokudai.ac.jp/symposium/origin.html>]

【注目!】藻類関係ではProf. Medlin (Alfred Wegener Institute for Polar and Marine Research) が講演される予定です(2日午後)。

2007年11月10日(土)

**藻類談話会**(奈良女子大, 奈良) [下記]

2008年3月21日(金)～23日(日)

**第32回大会**(東京海洋大, 東京) [次号]

## 2007年度「藻類談話会」のお知らせ

「藻類談話会」は藻類を研究材料とする幅広い分野の研究者の集まりで、西日本を中心に講演会や研究交流を行っています。今年度は以下の講演を企画しています。ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 時: 2007年11月10日(土) 13:00-17:00

場 所: 奈良女子大学文学部北棟 N201 教室 (奈良市北魚屋西町)

講演予定(敬称略)

羽生田岳昭(神戸大・内海域): 閉鎖性海域におけるアオサ類の多様性と越境移入について

中西 敬((株)総合科学・海域環境部): 海藻を用いた海域環境再生の試み

門田 純(理研・フロンティア): ボルボックス胚の形態形成運動の変異体 InvE の解析

野口哲子(奈良女子大・理): 微生物の脂質生産—単細胞緑藻 *Botryococcus braunii* の炭化水素生成の細胞学的解析—

参加費: 500円(通信費など)。

談話会終了後、学内の生協食堂で懇親会が予定されています(会費: 一般3,000円, 学生1,500円)。談話会および懇親会の参加希望者は10月31日(水)までに電子メールかファックスで下記の宛先へお申し込みください(当日参加も可)。また最新情報は下記ホームページに適宜、掲示しますのでご覧ください。

会場への道順: 近鉄奈良駅から、北へ徒歩約5分。

アクセスマップ <http://www.nara-wu.ac.jp/accessmap.html>

キャンパスマップ <http://www.nara-wu.ac.jp/campus.html>

参加申込・問合先

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

京都大院 人間・環境学研究科 幡野恭子

TEL: 075-753-6854 FAX: 075-753-6694

E-mail: [kyokohat@bioh.mbox.media.kyoto-u.ac.jp](mailto:kyokohat@bioh.mbox.media.kyoto-u.ac.jp)

2007年度藻類談話会ホームページ <http://biotech.nikkeibp.co.jp/100HP/> より「バイオ・基礎医学関係者の皆のホームページ」→「学会・研究会」の項目をお選びください。